

# I 2023 年度 浦佐地域づくり協議会の主な実施事業について

2024.4

## はじめに

浦佐地域のコミュニティ活性化事業は、浦佐地区センターに「浦佐地域づくり協議会」を設け、「雪国おくにじまん会館」の管理のほか、様々な事業を行っています。

地区センターと協議会の主な役割は、①施設全体の日常的な維持管理 ②協議会事務及びイベントなど自主事業の実施 ③各行政区・市との連携 ④市報等行政区あて文書配送 ⑤協議会が認める公共的団体等支援活動と事務局事務 などがあります。また、独自のプロジェクト事業の企画、運営・実施、ほか地域の活性化に有効と思われる事業などの連携を進めます。

特に、今年度は雪国おくにじまん会館 1 階に「びしゃもん市」と「西山 Cafe」がオープンしたことによる地域連携、活性化に向けた取り組みを強めた一年でした。



2023.4.23 びしゃもん市 & 西山 Cafe が OPEN しました

(浦佐地域づくり協議会は、市民・行政区と行政の中間組織として 2008 年 4 月に設立されました)

### 浦佐地区の概要

浦佐地区は 15 行政区で人口 4,467 人、世帯数 1,857 となっている。(2024.3 末)  
地区の中央を魚野川と JR、国道 17 号が南北に通る、地域のランドマークとなる新幹線駅、魚沼基幹病院、八色の森公園、国際情報高校などがあって、旧大和町 4 地区の中心地域となりました。地区の基幹産業は農業が中心を担って良質なコシヒカリ、八色スイカ、きのこ等が生産されています。地区全体では世帯数の微増はあるものの人口は減少傾向となっており、少子・高齢化と中心地への人口集中が進み、バランスの取れた発展など今後の課題になると思われます。  
また近い将来全面開通が見込まれる「国道浦佐バイパス」、「都市計画の変更」そしてゆきくに大和病院の診療所化と移転など、地域のまちづくりにとって大きく変わる要素が見えてきた一年でした。

## 1 2023 年度 活動報告

### (1) 地域活動拠点事業 (繰越金を含む市からの委託事業ほか収入済額 3,097 千円)

浦佐地域づくり協議会の事務局は雪国おくにじまん会館の 2 階にあって、地域の活動拠点となっています。事務長ほか 2 名、計 3 名の事務員などが現在常駐 (月～金曜日 8:30～17:00) しています。また「浦佐公民館」の事務室として、不定期ですが館長が同室で事務を行っています。

- ・「雪国おくにじまん会館」(浦佐地区センター) の運営と管理を行っています。
- ・毎月 2 回、南魚沼市から発行される市報・お知らせ文書等、各行政区へ配送します。(2024 年度から原則月 1 回 1 日発送となりますが、土・日曜など休日の場合には前日配送となります。年間 12 回以上となりますが、当面は 15 日配送も残る可能性があります)

- ・ 浦佐地区センターの開館時間は、年末年始及び、祝祭日を除く月曜から金曜日の 9 時から 17 時までとなっています。（会館の利用は予約により、9:00～22:00 まで休日も含め利用可能）
- ・ 地域での困り事や地域の課題・問題、コミュニティ活動に関する相談事について窓口を開いています。また地域課題等について、県市への窓口として“要望書”のとりまとめも行います。
- ・ カラーコピー機の利用、芝刈機、小型除雪機、テント類、折り畳み椅子・テーブル、PA・OA 機器等の備品類・イベント用品などの貸出も可能です。ご相談ください。

（事務長費、施設管理費ほか支出額 2,666 千円）

## （２）地域活性化支援事業（繰越金を含む市から受ける交付金事業ほか収入済額 4,752 千円）

地域活性化支援事業は市から交付金を受け、コミュニティの醸成また地域の活性化などに向けた活動を行なう事業で、「提案事業」と「基礎事業」からなっています。事業費は南魚沼市から同名の交付金で賄われていますが、提案事業では独自の収入源を求めなかで開催するイベントもあります。

（提案事業、基礎事業費など支出済額 3,880 千円）

### ① 提案事業（事業費の支出額 2,753 千円）

提案事業の目的は、地域で行われている伝統行事や活性化イベントの支援のほか、地域全体を巻き込むような活性化イベントの開催、また地域コミュニティを醸成しようとする事業です。

各種共催イベント事業、浦佐公民館・各種団体・環境活動への事業費補助、フットパスなど小規模な観光交流事業を進めてきました。コロナ禍を経てアフターコロナとなり人の流れが以前のようにとはいきませんが、それでも大型バスも見受けられるようになってきました。各地では大型イベントも開催されるようになり、訪日客（インバウンド）によりもたらされる消費は過去最高となったそうです。



年の初めは地域合同の  
賽の神祭りから

そうした状況にあって、中止することなく続けてきた“新しい生活様式”に対応した地域イベントは、地域の活性化に一定の効果をあげてきました。しかしながら社会状況の変化や価値観の変化などから、今後とも発展・継続し続けられる地域イベントへとその姿・内容を進化させていく時期に差し掛かっていることも事実です。

また、昨年設立した新法人（一社）浦佐まちづくり機構が運営する店舗「びしゃもん市」と「西山 Cafe」が 2023 年 4 月 23 日にオープンしました。もうじき 1 周年を迎えますが、安定した経営となるまでにはまだ改善が必要な部分もあると思われます。今後、西山地域の買い物困難者問題の取り組みや地域の拠り所としての利活用を進めることで、会館の拠点性を今以上に高め、地域内外の交流拡大と関係人口の創出を図りたいと考えています。



フルスペックの  
生ビール&鮎まつりが復活しました

## ② 基礎事業（事業費の支出額 1,127 千円）

基礎事業は、地域で管理する道路水路の外、市道などの簡便な補修工事など、地域の視点・目線から実施できる事業で、ここ数年、街路灯・防犯灯などのLED化を計画的に進めるほか、道路施設などの小さな改修工事や災害対応など、市と連携するなかで進めています。

地域の公共事業やまちづくりを考えるうえで、「都市計画」はハード整備の骨格であり、重要なまちづくりの基本となっています。新潟県と南魚沼市による数年来の見直し事業が進んでいるところですが、ようやく地域の意図する「都市計画の見直し案」について纏まり、23年度は新潟県において変更が認可されました。

22年に続き23年度も大きな災害等の発生はなく比較的平穏な一年でしたが、それでも夏季の異常気象による渇水など、対応が必要となった場合に備えていきたいと考えています。

今年度の基礎事業は従来の工事に合わせ、古くなった会館の修繕工事などを中心に進めてきました。



## (3) 各種プロジェクト事業（概要紹介）

### ① びしゃもん通り賑わい事業

空洞化しつつある浦佐西山地域の活性化を目的に、商工会、料飲店組合の皆さんを中心に地域の連続した新しいお祭りとして創設し、ローコストで省力化に工夫を凝らす中で“お祭りの日常化”を目指してきたところです。準備や当日の運営など全員で汗を流し、スタッフも含め全員で“祭りを楽しむスタイル”を目指し進めてきました。本年はアフターコロナとなって、「縁日」様式開催から「フルスペックの小さな祭り開催」へと祭り会場として定着させてきました。

「小さな祭り」は6～10月まで3回開催（基本第4日曜日）を計画し（今年度5月は南魚沼グルメマラソン大会への協力のためお休みとしました）浦佐「毘沙門通り」で賑わい事業として開催することができました。11月3日には「縁日」様式のお祭りも開催し、前年の人出を大きく上回ることができました。また国内ではインバウンドがコロナ禍を越え過去最高になるなど、人の流れが大きく動いたことを感じました。

そして7月の「生ビール&鮎まつり」も規模を縮小せず、フルスペックでの開催に多少の不安もありましたが、無事に開催することができました。

しかしながら“通りの賑やかさ”が、嘗ての商店街から住宅地へと変化する中で新たな軋轢も生じることとなって、新たな課題として認識されることもあったように思えます。



お祭り自体、地域が発展し続けられるような新たな形へ変化を遂げる時期へ来ているのではないかと考えられます。

### 23年の賑わい事業まとめ

5月3日「小さな縁日」お休み

5月28日「小さな祭り」お休み

6月25日「小さな祭り」の開催 会場：びしゃもん通り 軽トラ市+芸能ステージ 400人

7月23日「生ビール&鮎まつり」会場：びしゃもん通り 軽トラ市+芸能ステージ 4,250人

9月24日「小さな祭り」の開催 会場：びしゃもん通り 軽トラ市+芸能ステージ 260人

10月22日「小さな祭り」の開催 会場：びしゃもん通り 軽トラ市+芸能ステージ 440人

11月3日「小さな縁日」の開催 会場・会館周辺施設内 移動販売車4台 人出=200人  
計5,550人の人出となって、年々増加傾向にあります。

### 6月からフル規格の「小さな祭り」を開催！



1回の縁日開催と3回の小さな祭り、そして7月にはフルスペックでの「浦佐の夏の風物詩と言える「生ビール&鮎まつり」の開催」と頑張ったシーズンでした。人出集計での5,550人は対前年比でも増となって地域を大いに盛り上げました。自粛・自粛からアフターコロナへ、変化した生活様式が日常となりつつあるように感じています。

お祭り期間中は会館1階の店舗もお祭り仕様でお店をオープンし、大勢の方からご利用をいただきました。今後も（一社）浦佐まちづくり機構との連携を視野に賑わいの創出を進めていきたいと考えています。

（賑わい事業へ支出100千円）



## ②「浦佐のフットパス」の取り組みについて

フットパス事業は、人口減少が続く地域の経済的活性化も視野に入れた総合事業として 2016 年度から、南魚沼市の支援(パイロット事業)を受けるなか勉強会・講演会の開催から本格的に始まりました。(2015 年【風が吹けばプロジェクト】構想からはじまる。)

南魚沼市からの交付金を受けながら、本年もコースの充実作業など行ってきました。拠点整備面では 4 月 23 日にオープンした「びしゃもん市 & 西山 Cafe」が今後、新たなフットパス拠点となるよう利便性を高めていきたいと考えています。

営業ベースでの“フットパスツアー”は観光客が戻りつつある状況ではありましたが、拠点施設の整備などのため十分な準備が出来ず、計画することはできませんでした。それでも魚沼市と糸魚川小泊地区からそれぞれ 20 名規模での視察を受け入れ、10 月にはフットパスの全国集会に事務局で参加してきました(開催地：福島県西郷村)

足元の観光資源として、或いは地域学習の教材として多くの可能性を秘めていることから、今後の活用も含めコースとガイドの充実を図りながら事業を進めます。

また 2 月 16 日に「日本フットパス協会」へ正式に団体として加入し、各地でのイベント参加など積極的なつながりからも誘客を図りたいと考えています。



フットパス事業における主な実施事業として

- ・ 引き続きコース整備とコース管理作業を行う(草刈り作業、休憩場所周辺の除伐・草刈り整備)
- ・ SNS を活用したフットパスの普及、イベントの引き受け、視察等の積極的引き受けなど
- ・ 新たなコースの開設に向けた取り組みを進める 現地踏査、コース検討、魅力の発見と掘り起こし

(事業費支出額 68 千円)

(詳細は【浦佐のフットパス】ホームページ・ブログ参照)



日常的はコース整備も欠かさずに行っています



フットパス中のおもてなしはどこに行ってもとても楽しい



他所のコースを歩いてみるのは気づきになります

### ③ 「浦佐のTシャツ」作りと販売事業

“浦佐のアピール”と地域の活性化、などの創出を目的に、「生ビール&鮎まつり」でデザインされたスタッフ T シャツをベースに、一般販売用に製作・販売しています。製作数は 200 着 (M・L サイズ)で販売単価は 1,700 円/着、地区内数店舗にて販売中です。(2019 年度から販売 残枚数 50 着程度)



### (4) 多面的機能支払交付金事業

平成 26 年度から始まった「多面的機能支払事業」は、それまでの“減反政策”に代わる新たな国(農水省)による交付金事業として法制化もされ、「農振地域」と周辺を含む様々な農業環境の維持と整備を目的として創設されたものです。事業を推進するための組織は南魚沼市内 12 地区に設置され、浦佐地域では「浦佐地域づくり協議会」として“こうした交付金事業も取り込むなかで地域づくりを進める”とし、2014 年より本事業を取り組んでいます。(独立会計-別組織として活動し、事務局は共有しています)

2023 年度の全体事業費(繰越金含む)は 1,345 万円規模となって、農地と農用施設、景観を維持するための草刈作業や道水路の保守・農道の補修作業、また“田んぼ教室”、景観事業等々、地域の農業者が主体となった活動を行っています。

長寿命化事業では水路の補修工事など中心に業者委託工事を進めていて、五箇・川原町・鰯島地区などでは老朽化・不等沈下した水路の改修工事など行い事業効果を上げています。



浦佐地域広域協定 会長 井口義夫 200.95ha

### (5) 浦佐公民館の活動

【浦佐公民館】としてスタートし 5 年目、公民館活動を進めています。

主な実施事業

- ・委託事業 (生け花教室 12 回、菊づくり教室 7 回)
- ・地域の歴史にふれる遠足 5/13 21 名参加
- ・トレッキング「健康づくり登山」 6/10 19 名参加
- ・三十三番観音様巡り 7/22 14 名
- ・浦佐地区明朗運動会 中止
- ・グラウンドゴルフ大会 水無ふれいパーク 10/14 37 名参加
- ・そば打ち講習会 11/25 14 名
- ・しめ縄づくり教室 12/16 10 名
- ・百人一首 子どもかるた大会&ポッチャ大会 1/13 37 名
- ・冬山トレッキング in 坂戸山 3/16 6 名



## (6) その他事業

### ① 花いっぱい・緑化運動

浦佐地域づくり協議会と地域の皆さんにより、大和・魚沼地域の玄関口である浦佐駅東側地域の広場と県道及び市道植栽樹の花壇作りに取組み、植栽区域も年を重ねるごとに充実した内容となっています。八色の森公園での各種イベントの再開などから地域への来場者も増加傾向になって、道路からの景観対策などもあって行政区や個人・地域からの参加で植栽マスや緑地などきれいになってきました。花壇づくりや花植え、草取りなど管理をして頂いた皆さんには大変ご苦労様でした。感謝を申し上げたいと思います。

また、市には“潤いあるまちづくり”などから植栽された街路樹など、景観に配慮した適正な整枝・剪定、或いは植え替えなど計画的に進めることを望みたいと思います。



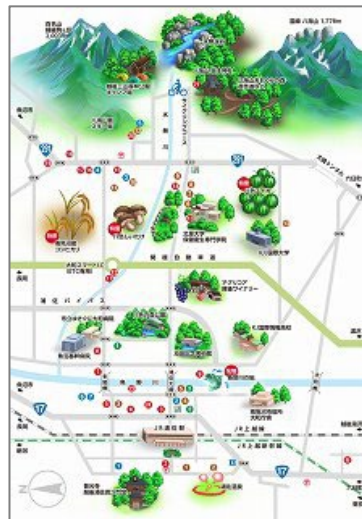
### ② Web 版 料飲店マップ

魚沼基幹病院の開院、大型店の出店、また関連事業所などの充実・活性化するなか、魚野川両岸地域での人の動きも着実に多くなっていると感じます。

浦佐料飲店組合の協力を得ながら作られた「Web 版料飲店マップ」は、浦佐と東地域の料飲店の様々な情報を一括して見ることができ、スマホやタブレットから簡単にお店を検索することができます。

「料飲店マップ」ではメニューや写真の内容更新や新規の加入などメンテナンス作業を行っています。

マップは浦佐料飲店組合と共同事業として、南魚沼市のパイロット事業補助金を頂くなかで2015年度から始めました。“料飲店マップ”で検索してみませんか！



### ③ 浦佐の「川まち計画」について

市建設課また国交省「信濃川河川事務所」などの行政機関を含め、勉強会・相談会、現地確認など行いながら「浦佐の川まち計画」構想の実現に向けた取り組みが進められています。今年度の活動については残念ながら具体的な活動に結び付ける行動ができませんでした。地域の景観形成と併せ魚沼漁協浦佐分会を中心に地域と川を結びつける取り組みを進めています。



また、例年浦佐小学校 6 年生を対象に行っていた鮭のつかみ取りは、学校とサケの遡上の日程が合わず、行うことができませんでした。

### ④ 浦佐の都市計画見直しについて

南魚沼市「都市計画マスタープラン」は 2016 年 3 月に更新され、概ね 20 年後の年の姿を見据えつつ実現可能な 10 年間の都市づくりに関する基本的な方針が示され、「都市計画」についても見直しの方向で進んできました。2019 年 9 月に示された浦佐地域の都市計画見直し案には、地域として大きな課題となっていた“見直し要望箇所”が搭載されていなかったことから、協議会として「公述意見書」を提出(2019 年 10 月)し、新潟県並びに南魚沼市と協議を重ねてきました。



「都市計画」は地域の公共事業とまちづくりの骨格を示すものであり、この間数期にわたるワークショップや地域からの要望等に沿った取り組みをしていきたいと考えています。

なお 3 月に検討を重ねてきた「南魚沼都市計画道路の変更」が新潟県にて決定がなされました。

### ⑤ 雪国おくにじまん会館 1 階「びしゃもん市」と「西山 Cafe」の取り組みについて

2023 年 2 月に設立した(一社)浦佐まちづくり機構が運営する店舗「びしゃもん市」と「西山 Cafe」が 4 月 23 日にオープンしました。季節営業だった旧びしゃもん市が通年営業となり、駅西地区の買い物困難者解消や落ち着いてお茶が飲め、食事也能るカフェを地域内外の人に広く使用していただきたいと考えています。まだまだ周知不足な部分もあり、経営的に安定した収支を計上することができていませんが、多様な手法を用いて情報発信、提供内容の充実を図っていくと考えています。

また 2 月から始まった宅配弁当も好評で、特に美味しいお米を味わえるとの声をいただいています。今後は福祉の分野でも地域に貢献できるよう大和包括支援センターや社会福祉協議会と検討する中で事業を進めていきます。





## ⑥ 協議会事務局体制の強化について

地域おこし協力隊が着任 2 年目になりました！

現在、各協議会には地区センター事務長(集落支援員 1 名)が配置されています。各地域づくり協議会は南魚沼市が誕生して間もなく、行財政改革などから“行政との距離感”が物理的にも遠のくことなども心配されることもあって、むしろ積極的に地域の特性に合わせ“地域で出来ることは地域で”と、市内 12 地区へ新たな自治組織である協議会を設立しました。

協議会組織は、基本市の交付金により運営されますが、地域事情に合わせた事業展開も期待され、将来的な協議会の発展的な組織・活動強化と独自運営化も遠望されていました。浦佐地域も「少子高齢化」や「人口減少」・「周辺部の空洞化」、また都市計画と公共事業など多くの課題が山積していると感じています。

行政だけに頼ることなく、地域課題の解決に向けた取り組みをいっそう進めたいと考えています。こうした取り組みを強力に進めるために事務局に必要となる新たなるマンパワーとして、昨年 11 月に着任した「地域おこし協力隊」の活動が 2 年目を迎えました。

今年度前半は 1 階店舗の現場に出てスタッフの指導や商品の発注・仕入れ業務にあたりました。後半は他所の協力隊員との交流や地域で開催された研修などに参加し、多くの知見を得る機会になったのではないのでしょうか。



メモ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....